

2024 年度自己点検・評価について（報告）

自己点検・評価委員長

本学は、2022 年度に短期大学部が認証評価を受審し、適合の認定を受けた。早急に改善を要すると判断される事項の指摘はなかったが、向上・充実のための課題が2点あった。そこで、2024 年度の自己点検・評価は、短大認証評価において、指摘を受けた事項を点検項目とした。以下、その結果を記す。

1. 建学の精神と教育の効果

短大認証評価において、向上・充実のための課題に、各学科の学習成果の達成度が測れる定量的指標の必要性が指摘されている。また、本学の学習成果は、卒業認定・学位授与方針に基づいたものであるが、卒業認定・学位授与方針とは別に設定するよう求められている。

まず、学習成果を測る指標であるが、2021 年度に各学科で卒業認定・学位授与方針の項目のうち少なくとも1項目の学習成果を測る指標を検討し、2022 年度にその指標を用いて学習成果の測定を試みることで、測定指標の改善を図っている。そして、2023 年度に引き続き、2024 年度も各学科が学習成果の測定を行った。

生活文化学科については、学科 DP に定める教養の到達度を教養科目の成績評価で、計画性・論理性・コミュニケーション力・協働する力を1、2年次のゼミ活動とインターンシップで学習成果を測定している。ゼミ活動はルーブリックに基づき、インターンシップについては、教室での評価、学生の日誌・報告書の評価、受け入れ企業の評価、学生の自己評価を合わせ、また学生へのアンケートにより到達度を自己評価による直接・間接評価を実施している。教養教育で求められるリテラシー能力の評価を学科で共有し、学生指導に活用している。

幼児教育学科は、学習成果測定のルーブリックに基づき、学生アンケートによる学習成果の測定を行っている。アンケート結果は、学生別に集計、チャート化して学科会議等で共有され、学生指導に活用している。直接評価である成績評価と、アンケート結果の関係を整理し、学習成果の測定とすることが課題であり、次年度以降の実施を学科で検討し、教員間で共有している。

2. 教育資源と財的資源

短大認証評価では、「財務状況について、学校法人全体及び短期大学部門で過去3年間の経常収支が支出超過となっており、運用資産に比べて外部負債が多い。今後、経営改善計画を着実に実行し、財務体質の改善を図ることが強く求められる。」との指摘を受けている。短期大学部は生活文化学科・幼児教育学科ともに、2025 年度に学生募集を停止した。今後は、全学生が卒業に至るまで、教育の質を担保し、教育、学生支援、進路指導等を行うために万全を尽くしていく。